

「市民の手によるふれあいと創造のまちづくり」の一環として、各種施設へのルート、市民のふれあいの場になっている。歩道のモール化は白を基調とし、沿道にはツバキを植栽。市のイメージを一新。



川崎市は、東京、横浜の二大都市に隣接し、京浜工業地帯の中核をなす工業都市として発展してきた。市では二十一世紀に向けて、「市民の手によるふれあいと創造のまちづくり」を都市政策の基本に位置づけ、その実現をめざしている。その一環として昭和五九年度から六〇年度にかけて整備された「市役所通りモール」は、国鉄川崎駅から海側に向かっての、デパート等の商業施設、銀行、市役所等の業務街の軸になって



おり、さらには産業文化会館、体育館といった文化・スポーツ施設へも通じている。

歩道は白を基調として明るさと清潔さを追求するとともに、沿道には市民の木であるツバキ等を植栽して、うるおいと個性あるまちづくりを進めており、市民のふれあいのための中心的なゾーンとなっている。

## データボード⑫

- ① 神奈川県川崎市川崎区砂子1丁目～宮本町
- ② 川崎市役所 ☎044-200-2111
- ③ 延長370m、幅員40m
- ④ 人工御影石タイル
- ⑤ 植木市

